

平成27年度学力向上マニフェスト

荒川区立第三中学校

本年度の指導の重点 (昨年度の成果と課題を踏まえて)	取組の概要(実施内容)	評価指標 取組指標（教師側の指標） 成果指標（子ども側の指標）	予算執行	取組の成果	評価
【三中でらこやで学力向上】 本校伝統の「三中でらこや」を即効性のある学力向上策として実施する。区学力向上調査、各種検定で成果が見られており、今年度も基礎・基本の定着と検定の合格実績を伸ばす。	・週2回の火・水、夜7：00～8：30にコース別プリント学習、各種検定級別学習コースによる補習授業を実施する。 ・指導は、教員を目指す大学生、大学院生を採用し、チームで指導を行わせる。また、指導補助として保護者によるコミュニティティーチャーの参加を募る。	・年間40日以上の実施を目指す。大学生を中心とする外部人材主導の運営を確立させる。			
		・荒川区学力向上調査における区の目標達成率を上回る率を70％以上とする。			
【学校図書館学習センター化・情報センター化推進】 学校図書館を授業活用を前提として活用しやすさを前提として改善を図る。書籍の整備等を積極的にを行い、調べ学習等に活用する。	・学校図書館の学習センターを進める。意図的に図書館での授業を実施に向け、ファイレリングコーナーや視聴覚機器等の設置を行う。 ・保護者に皆様の支援による図書館ボランティアの参加により、図書館改革を加速させる。	・学校図書館開館日を245以上を目指す。 ・図書館指導員と教科教員との「コラボ授業」の実践、年間100時間以上、全教科で図書館授業を実施する。			
		・図書館利用率高め、下記の数値目標を達成する。 ・図書館利用者生徒数を累積16,000人以上、貸出冊数累積7,0000冊以上の数値目標を達成する。			
【各種検定推進による学力向上】 検定教材を充実させ、補習活動に活用する中で、検定試験に挑戦させ、学力向上を図ります。	・英語検定、数学検定、漢字検定に挑戦させる過程で学力向上を目指す。 ・具体的な手段として「諏訪台でらこや」では検定コースを充実させ、購入した問題集活用させることで高い能力の定着を図る。 ・放課後補習、個別指導を充実させ、合格者数増加を推進する。	・本校での準会場受検を3種類で毎学期実施し、年間で9回の受検機会を提供する。			
		・各種検定（英検、漢検、数検等）のそれぞれで受験者数、合格者数を前年度比、各級1.3倍を目指す。			
【教員の授業力向上推進】 チャレンジする教師を育成します。（外部研修への参加） （校内研修の推進） （外部研修会への参加）	・「小中一貫教育研究推進校」の研究本発表年として研究まとめに向けた研究授業を設定する。特に基礎的・汎用的能力、ICT機器を活用した授業改善を目指す。都教委主催等の外部研修に前年度比1.5倍の教員が参加する。	・基礎的・汎用的能力の育成という視点で全ての研究授業をキャリア教育推進を目指し行い、授業の質の向上を目指す。			
		・生徒の学校関係者評価におけるわかりやすい授業の評価率が高まったかという点で検証する。			
【タブレットPCによる授業改善】 導入されたタブレットPCを授業活用することで授業内容の充実・工夫改善を行う。	・タブレットPC導入2年目を迎え、普段使いできる授業活用を一層推進する。 ①各教科における作成ソフトを区内の教科部会で共有し、荒川区全体の活用に積極的に関わる。 ②補習活動等を含め、効率的なタブレットPCの活用を目指す。	・授業改善の視点で授業使用率を高める。 全教科での使用を奨励する。			
		・普段使いの定着を図る。			
【キャリア教育の推進】 キャリア教育における基礎的・汎用的能力の育成により学力向上を図る。	・意欲の高まりは学力向上につながる。「校内ハローワーク」や「キャリアコーディネーター」等、外部人材の活用による行事により将来を見据えた学ぶ意欲に結びつける。向上に結びつける。授業規律、人間関係形成能力、情報活用能力等の能力を高めることで学ぶ意欲へとつなげる。	・「5日間の勤労留学」、「校内ハローワーク」、「マナー講座」等、外部人材を活用し学ぶ意向上を目指す。意識調査で検証する。			
		・学力向上調査の意識調査で、学ぶ意欲等、全ての項目で前年度数値の2ポイント上を目指します。数値を公表します。			
【基礎学力の定着】 ティーチングアシスタントの活用により、基礎学力の定着を図る。	・ティーチングアシスタントの積極的な導入により、基礎学力の定着を図る。特に到達度の下位層のレベルアップを図ります。	・ティーチングアシスタントと教員との指導の分担、役割分担を明確にし、有効な授業展開を行う。			
		・26年度学力向上調査（活用）の達成率を前年度比全教科で2ポイント上回ることを目指す。学力向上調査の結果比較により、細部にわたる到達度の変化を公表する。			

【評価】 成果指標の達成度から評定(A・B・C)を決める
A:達成度90％以上 → 目標達成と見なし新たな目標を設定する B:達成度が9割未満5割以上 → 継続実施 C:達成度が5割未満 → 目標の見直し